

# 京都大学インダストリアルデイ 2019②

## 企業出展概要

### 富士通株式会社

林 智裕 (株式会社 KTS コーポレーション PKG ビジネス事業部 (富士通株式会社))

「VR、電子ペーパー、ロボットで新たな研究基盤へ」

製薬企業、創薬ベンチャー、化学産業など創薬研究を行う企業や団体をターゲットとした富士通の新規ビジネス領域である創薬研究基盤の実現に向けたソリューションを紹介する。

1. VRを用いた原子・分子・タンパク質の立体視化、リモートワークを実現する仮想空間会議
2. 電子ペーパー活用によるペーパーレスと研究情報の安全な保管
3. 協働ロボットによる実験作業効率化

### 桂オプティクス

藤井 高志 (桂オプティクス代表)

「THz 電磁波を用いた半導体材料の電気特性測定」

我々は、THz 周波数(0.5~4.5THz)領域での分光特性測定装置を開発し上市している。半導体材料において、この装置を用いて分光解析を行うことにより抵抗率やキャリア濃度、移動度も求めることが可能である。この電気特性手法は、非接触・非破壊で電極を必要としない。さらに多層膜の各層の電気特性も求めることが可能である。今回は三層構造の SiC とサファイア上グラフェンに適用した結果について報告する。

### サンアプロ株式会社

木津 智仁 (研究所ユニットリーダー)

「光酸発生剤：溶解性と分子設計の課題」

光酸発生剤は、特定波長の光を照射することで分解し Brønsted 酸を生成する化合物である。この発生酸でコーティングやインクを硬化させることで主に電子材料分野などで利用されている。今回は近年の半導体プロセスのトレンドから光酸発生剤に求められる機能と、これに適合する弊社主力製品について簡単に紹介し、併せて次世代の光酸発生剤および化合物設計に広くまつわる課題について述べる。

### 株式会社堀場製作所

佐藤 優穂 (先行開発部)

「バイオ分野における分光分析技術とその応用」

近年、再生医療・創薬等のバイオ・ライフサイエンス分野で新たな評価技術への関心が高まっています。弊社では、分光技術を応用したソリューション提供に取り組んでおり、顧客・市場ニーズへの対応を強化しています。特に、生体関連試料の詳細な解析、迅速な品質管理技術へのニーズは高く、ラマン分光分野では透過ラマンやイメージング技術などが求められています。本発表では、これら技術の最新動向や応用事例をご紹介します。

### **コニカミノルタ株式会社**

津島 峰生（開発統括本部 要素技術開発センター システム技術開発室 第3グループ グループリーダー）  
「最先端化学を具現化する三位一体の開発」

1873年の創業事業が写真フィルムであるように、当社の「化学」は長い歴史を有するが、もう一つの創業事業であるカメラに端をなす画像化による「観測・計測」と、昨今のデジタル技術の驚異的な進化によってもたらされたマテリアル・インフォマティクスを代表する、前者2つを統合する「データ解析」の三位一体の開発について紹介する。

### **京大オリジナル株式会社**

臼谷 弘次（コンサルティング事業部 コンサルタント）

京大オリジナル株式会社は京都大学 100%出資の子会社です。産学官連携経験者、大手事業会社の研究開発・海外事業経験者、シンクタンク・コンサルティングファーム出身者、M&A・IPO アドバイザリー経験者等による専門コンサルタントが、「京大の知」と共創し、皆様が抱える様々な課題（組織体制・風土、マネジメント手法、新規事業創出、技術提携、ファイナンス等）に対するシームレスなソリューションを提供いたします。